

55. ミシン縫いの際におこる布のずれについて

(第2報)

三重短大 ○橋本貴美子
川田 光子

1. ミシンによって布を縫い合わせる時、二枚の布が正しく縫い合わされず、一方の布がずれて、縫い合わせに困難な場合がある。又緯縞等は縞を合わせるのに苦心を要する。そこで布のずれの起る原因を究明し、ずれを減少する方法の基礎的研究を目的とした。

2. 前回の実験により、布によってずれの程度の差異がある事がわかったので、その原因を更に究明するため、(1)圧縮弾性、(2)押え金と布との摩擦係数、(3)布と布との摩擦係数を測定した(前回同様試料は16種類)。(4)実験によりミシンの押え金の圧力の強弱、送り金の出方の多少によりずれが変化する事が明らかになったので、ずれの多い布、少ない布2種ずつを用いて、その布について一番ずれの少ない押え金、送り金の位置を調べた。(5)ミシンの回転速度によるずれの変化をも調べた。

3. (1)、(2)、(3)は布により差異は大きい、ずれの多少とこれらの一つの性質と直接関係づける事はむづかしく、各種の性質が複雑にからみ合っている。(4)は布の厚さその他の性質との関係もあるが、概して押え弱く、送りの出方の少ない方がずれが少ない。(5)は速度によりずれは多少変化するが、布によってはまちまちである。